

留学先国名 : カナダ

留学先学校名 : Carleton University

留学期間 : 平成 26 年 8 月 28 日 ~ 平成 28 年 4 月 22 日

私は今年の夏で、カナダに留学しはじめて約 2 年が経ちました。カナダに来て 1 年目のときはまだ何も知らないことが多くて、カルチャーショックが多くて戸惑うことがよくありましたが、2 年経った今ではあまり戸惑うことがなくなりました。それはおそらくカナダの文化に慣れたという事実と、カルチャーショックを体験するのに慣れたということからきていると思います。そして言語での問題もだいぶ少なくなってきたのでコミュニケーションをとりやすくなりました。カナダは多文化国家なので、自分が完璧な英語を喋れなくても他の人より自分が劣っている、恥ずかしいなどといったことは感じずに過ごせるのが、プレッシャーもなくストレスフリーで留学生にとっては過ごしやすいと思います。特に私のいるオタワでは人が誰でも他の人に優しく、治安もよく、お互いが他人というよりは、みんなで支え合って生きているという感じがして過ごしやすいです。オタワはカナダの首都ですがあまり大都市ではなく、でも田舎でもなく、落ち着いた過ごしやすい町です。2 年経った今となってはいつも遊ぶ友達や、クラスメイトでも同じクラスを 1 年生のころからとっている人たちとはかなり仲良くなって、第二の故郷という感じです。日本でもカナダでも、自分の安心できるところがあるのはとても恵まれていると思います。

学業の面でもこれまでは課題でいい点数をとることよりも、まず課題をちゃんと終わらせる、自分で課題の内容を理解するということが精一杯だったのですが、2 年生の途中からやっと課題のタイプにも慣れてきて、また言語能力があがることによっていい点数をとりやすくなり、課題への力の込めようが自分で変わったことに気づきました。今となっては、自分で書いたエッセイは必ず最低でも 1 人の自分以外の人にプルーフしてもらい、その後自分でも確認するというプロセスを通してから提出するようにしています。それをするにより、自分のエッセイが向上するだけでなく、他の人に修正してもらうことにより自分で間違っていたところを修正でき、同じ間違いをなくすることができます。それを何回も繰り返すことにより、自分のエッセイを書く能力は早く向上しやすくなります。私のアドバイスとしては、大学に進学してすぐは課題とかよく理解できなくて自分の満足できる点数がとれないかもしれませんが、それは別に自分が留学生で言語能力が他の生徒よりも劣っているからということではなく、それは大学に入学したての現地の学生でもみんな経験することなので、自分を責めずに、まずは課題をこなすことに慣れることが大切です。100%自分で理解できないとしても、とりあえずやってみるという、挑戦するという姿勢が留学生活での苦しいことや困難を乗り越えていくことにはとても大切です。

また、2016 年の夏から大変自分の生活の中で変わったことは、アルバイトをはじめたことです。留学経験とは学業にかぎるものではなく、その自分のいる国で経験するすべてのことを言うと思います。アルバイトをはじめて学んだことは、アカデミックではない英語を学べたり、日本で仕事をする感覚とカナダで仕事をする感覚の大きな違いにも気づけました。カナダではお客様と働いている側が同じ立場で、お互いが同じ

人間同士であるということに同意の上で会話するので、日本とは全く違う文化です。日本ではお客様がすべてで、尊敬の態度は欠かせません。また先輩と後輩の関係も、カナダではほとんどありません。アドバイスをもらったりはしますが、やはり先輩と後輩という関係よりは、同じ人間であるという考え方で働くので、友達をつくりやすいです。また、ずっと礼儀正しくしていないといけないというピュアプレッシャーもありません。私が思うのは、働くのはカナダで働く方がプレッシャーもなく、働きやすい環境だと思うのですが、やはり日本の接客サービスは世界で一番だということに気づきます。礼儀の正しさ、上下関係の厳しさがあるからこそ生まれる世界一の接客サービスだと思います。私は日本かカナダどちらのシステムがいいかは選べません。どちらの国にも良いところと悪いところがありますし、文化の違いの上で生まれる接客業の違いだと思うので、違いがあるのは仕方がないし、でもむしろ違いがあるからこそ、両方を経験することによって自分の視野を広められると思います。なので、私からのアドバイスとしては、アルバイトをすることで自分の学ぶ範囲が学業だけに絞られず仕事についても学べますし、自分の行動する範囲を広げることによってあらゆる角度から文化の違いを学べると思います。

留学して2年間、色々学べたことがありますし、この留学経験を通して本当に自分自身での成長が感じられます。それはもしかしたら家族も誰も知人がいない場所へ一人で行き、そこからまた新しい人生を自分で作り上げていくという経験からきているのかもしれませんが、違う言語を自分のものにして、自分の今までの「普通であたりまえなこと」から全く離れた新しい世界、新しい基準、新しいあたりまえに挑戦しているという経験からなのかもしれません。でもその理由が何であったとしても、自分がそのような経験をできるという幸せをあたりまえに思うことなく、常に自分をサポートしてくれている家族、日本の友達、そしてカナダの友達に感謝をしながら、もっと色々な経験をしていきたいと思います。